

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【事業年度】 第65期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 北沢産業株式会社

【英訳名】 KITAZAWA SANGYO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 尾崎 光行

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区東二丁目23番10号

【電話番号】 03(5485)5111

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 石塚 洋

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区東二丁目23番2号

【電話番号】 03(5485)5020

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 石塚 洋

【縦覧に供する場所】 北沢産業株式会社 大宮支店
(埼玉県さいたま市北区宮原町二丁目99番5号)

北沢産業株式会社 千葉支店
(千葉県千葉市中央区都町二丁目12番10号)

北沢産業株式会社 横浜支店
(神奈川県緑区青砥町623番地1 やま喜ビル102号室)

北沢産業株式会社 名古屋支店
(愛知県名古屋市名東区平和が丘五丁目44番地)

北沢産業株式会社 大阪支店
(大阪府大阪市淀川区宮原一丁目17番33号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (千円)	17,581,264	15,386,094	13,809,069	14,280,005	15,299,736
経常利益又は経常損失 () (千円)	260,681	223,107	17,023	308,346	426,507
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	411,864	396,094	134,985	103,865	125,367
包括利益 (千円)				79,037	146,296
純資産額 (千円)	8,889,878	8,391,498	8,221,653	8,181,744	7,300,000
総資産額 (千円)	18,648,275	16,149,278	15,410,858	15,230,543	15,667,285
1株当たり純資産額 (円)	375.17	354.28	347.18	345.54	392.54
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	17.38	16.72	5.70	4.39	5.44
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	47.7	52.0	53.3	53.7	46.6
自己資本利益率 (%)	4.4	4.6	1.6	1.3	1.6
株価収益率 (倍)				37.4	33.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	28,463	356,964	92,130	741,678	904,890
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,020,155	327,323	76,049	8,549	249,702
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	192,669	384,050	613,299	318,946	590,540
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,034,286	2,679,875	2,082,657	2,496,840	2,561,488
従業員数 (人)	514	508	489	476	467

(注) 1 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

2 第64期及び第65期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第61期、第62期及び第63期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (千円)	17,387,971	15,395,857	13,809,039	14,236,332	15,212,856
経常利益又は経常損失 () (千円)	230,679	215,998	23,344	290,063	383,552
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	367,431	382,691	111,261	101,464	94,597
資本金 (千円)	3,235,546	3,235,546	3,235,546	3,235,546	3,235,546
発行済株式総数 (千株)	23,818	23,818	23,818	23,818	23,818
純資産額 (千円)	8,853,393	8,368,416	8,222,294	8,179,984	7,267,470
総資産額 (千円)	18,591,480	16,060,642	15,374,688	15,183,338	15,577,451
1株当たり純資産額 (円)	373.63	353.30	347.20	345.46	390.80
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	8.00 (4.00)	5.00 ()	5.00 ()	5.00 ()	5.00 ()
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	15.50	16.15	4.70	4.28	4.10
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	47.6	52.1	53.5	53.9	46.7
自己資本利益率 (%)	4.0	4.4	1.3	1.2	1.2
株価収益率 (倍)				38.3	43.9
配当性向 (%)				116.7	122.0
従業員数 (人)	442	434	422	409	396

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第64期及び第65期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第61期、第62期及び第63期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	沿革
昭和26年3月	日本黒耀石工業株式会社を資本金100万円で設立する。
昭和35年4月	北沢産業株式会社を資本金100万円で設立する。
昭和36年4月	販売の地域拠点として大阪営業所を開設し、名古屋(6月)、札幌(11月)、福岡(11月)に営業所を開設する。以後毎年各重点地域に支店ならびに営業所を設置し、販売サービス網の拡大を展開する。
昭和37年6月	製造部門の強化を目的として埼玉県入間郡大井町に川越工場を新設し「フライヤー」の増産体制に入ると共に、業務用の食品調理機器ならびに厨房機器の製造販売体制を確立する。
昭和38年7月	株式額面変更のため、東京都大田区所在の同一商号の別会社北沢産業株式会社(元日本黒耀石工業株式会社)資本金100万円に合併し、東京都渋谷区中通2丁目11番地(現渋谷区東二丁目23番10号)に本社を設置する。
昭和38年9月	株式を公開、東京店頭銘柄に登録する。
昭和42年6月	生産部門と販売部門のコスト意識をはかる目的として川越工場を分離し、全額出資の北沢工業株式会社を設立する。
昭和44年4月	松下電器産業株式会社との共同開発により、ユニット式業務用大型冷蔵庫の販売に入る。
昭和45年4月	石川島播磨重工業株式会社との業務提携により、自動食器洗浄機の販売に入る。
昭和49年4月	ドイツ、パツナー社(現パルックス社)との提携により、アンダーカウンタータイプの自動食器洗浄機の販売に入る。
昭和53年5月	当社全額出資の北沢工業株式会社の株式を全額売却する。
昭和55年11月	省エネ型茹麺機を商品開発し、販売に入る。
昭和56年9月	本社内屋増改築工事完成する。
昭和57年3月	エアー制御による弁当盛付機の販売に入る。
昭和58年8月	ドイツ、パルックス社との提携により、コーヒーマシンの販売に入る。
昭和59年4月	製菓・製パン用機器群のラインナップ及び省エネ型ガスパワーオープンを商品開発し、製菓・製パン業界業務用機器の販売に入る。
昭和60年4月	アメリカ、ホバート社との代理店契約を締結、同年10月よりホバート業務用厨房機器の販売に入る。
昭和62年4月	ドイツ、パルックス社にて開発された真空調理法において使用されるマルチクッカーの販売に入る。
平成元年7月	物流の効率化を目指し、埼玉県比企郡に流通センターを設置する。
平成4年9月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成5年1月	アメリカ、ファルコン・プロダクツ社と販売提携により、業務用家具の販売に入る。
平成7年4月	株式会社北沢キープサービス(現・連結子会社)の株式取得。
平成9年3月	サンベイク株式会社(現・連結子会社)の株式取得。
平成9年4月	ファルコン・ジャパン株式会社を設立。
平成9年11月	エース工業株式会社(現・連結子会社)の株式取得。
平成11年9月	東京証券取引所市場第一部に指定。
平成19年6月	埼玉県日高市に新流通センターを新設。
平成19年10月	連結子会社のファルコン・ジャパン株式会社を吸収合併。
平成21年3月	イタリア、クッパーズブッシュ社との代理店契約を締結。
平成23年4月	株式会社IHI回転機械より食器洗浄器および回転棚の製造・販売・アフターサービスに関する事業譲渡を受ける。
平成24年3月	全国主要都市に支店、営業所を配し、現在全国に16支店29営業所の販売拠点を擁す。

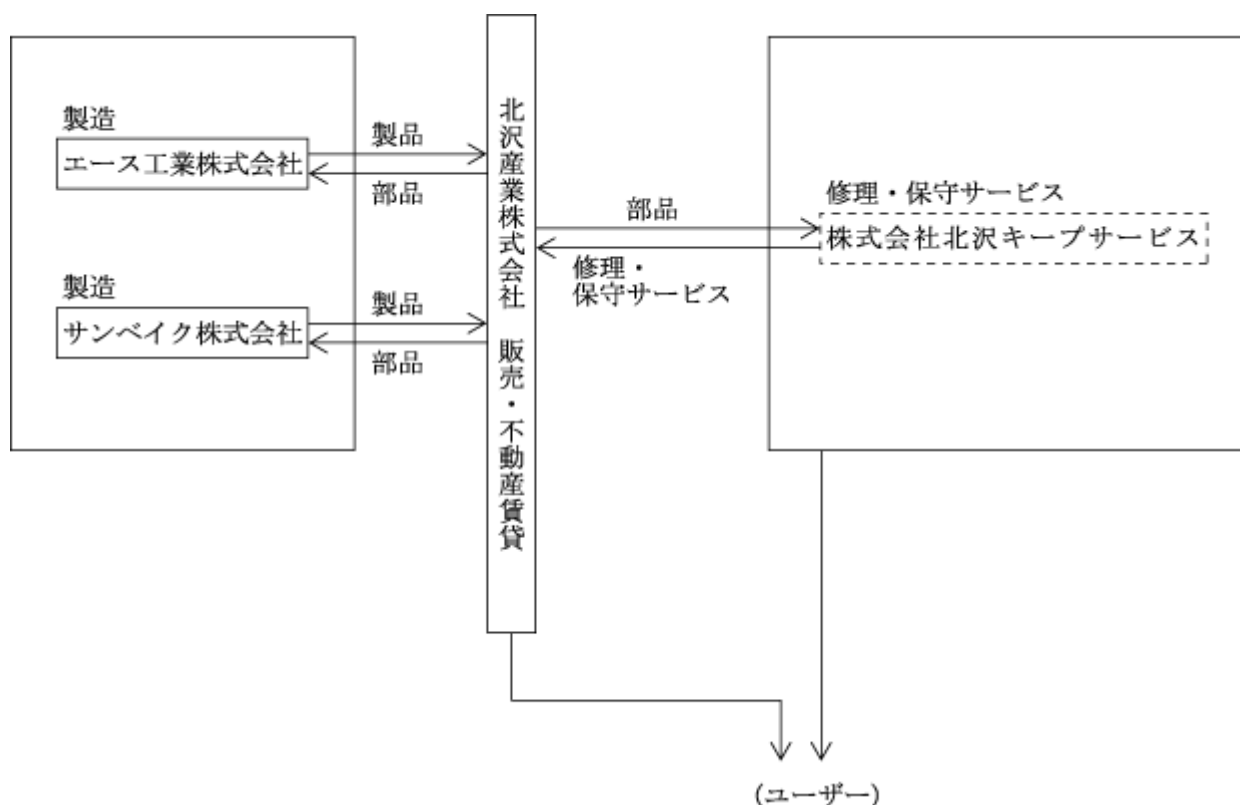
3 【事業の内容】

当社グループは当社及び子会社3社により構成されており、事業は業務用厨房機器・家具の販売を主に、これらに附帯する業務用厨房機器の修理・保守サービス及び業務用厨房機械器具、製菓・製パン機械器具の製造を行っているほか、不動産の賃貸業務を営んでおります。

事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付け並びに報告セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお事業内容の区分は、報告セグメントの区分と同一であります。

区分	主要な会社
業務用厨房関連事業	
業務用厨房機器・家具の販売	当社(会社総数 1社)
業務用厨房機器の修理・保守サービス	当社、(株)北沢キープサービス(会社総数 2社)
業務用厨房機械器具の製造	エース工業(株)(会社総数 1社)
製菓・製パン機械器具の製造	サンベイク(株)(会社総数 1社)
不動産賃貸事業	
不動産の賃貸	当社(会社総数 1社)

以上の企業集団等について図示すると次のとおりであります。



(注) 全て連結子会社であります。

4 【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容				
					役員の兼任等		営業上の取引	設備の 賃貸借	業務 提携等
					当社役員 (人)	当社従業員 (人)			
(株)北沢キープ サービス	埼玉県 日高市	20,000	業務用厨房 関連事業	100.0		1	部品の販売先 修理・保守管理の委託	建物の 貸与	なし
サンベイク(株)	福岡県 久留米市	42,000	業務用厨房 関連事業	100.0			部品の販売先 製菓製パン機械器具の仕入先		なし
エース工業(株)	埼玉県 狭山市	70,000	業務用厨房 関連事業	100.0		1	部品の販売先 業務用厨房機械の仕入先	建物の 貸与	なし

(注) 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
業務用厨房関連事業	442
不動産賃貸事業	5
全社(共通)	20
合計	467

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令	平均勤続年数	平均年間給与(円)
396	40.6才 ヶ月	12年 4ヶ月	4,168,704

セグメントの名称	従業員数(人)
業務用厨房関連事業	371
不動産賃貸事業	5
全社(共通)	20
合計	396

(注) 平均年間給与は時間外手当及び賞与を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労使関係は円満に推移しており、労働組合については特に記載する事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により引き続き厳しい状況にあるものの、景気は緩やかな回復の兆しがみられております。一方、欧州の経済危機等による海外経済の低迷等の影響から、国内経済も先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要取引先であります外食産業におきましても、市場規模に拡大がみられず、経営環境は非常に厳しい状況で推移しております。

このような環境の中で、当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高は152億99百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は4億9百万円（前年同期比45.0%増）、経常利益は4億26百万円（前年同期比38.3%増）、当期純利益は1億25百万円（前年同期比20.7%増）となりました。

売上高につきましては、お客様のニーズを最優先に考えた提案型の営業を積極的に展開した結果、東北地方の復興需要の影響もあり、前期に比べ10億19百万円の増収となり、営業利益、経常利益及び当期純利益につきましても前年同期に比べ大幅な増益を確保することとなりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

業務用厨房関連事業

業務用厨房関連事業につきましては、売上高は149億53百万円と前年同期に比し7.3%の増収となりました。利益面におきましても、大幅な増収効果により8億16百万円と前年同期に比し19.7%の増益となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業につきましては、売上高は3億46百万円と前年同期に比し1.1%と若干の増収を確保したものの、営業利益は1億95百万円と前年同期に比し0.5%の減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末より64百万円増加し、当連結会計年度末には25億61百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得た資金は、9億4百万円（前年同期は7億41百万円の増加）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上額4億24百万円、仕入債務の増加6億74百万円等の増加要因と売上債権の増加4億72百万円等の減少要因が相殺されたものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、2億49百万円（前年同期は8百万円の減少）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出2億円、有形固定資産の取得による支出63百万円等に使用したためです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、5億90百万円（前年同期は3億18百万円の減少）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出9億9百万円、配当金の支払1億18百万円の減少要因と長期借入金の借入4億50百万円が相殺されたものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
業務用厨房関連事業	691,845	3.5

- (注) 1 金額は製造金額によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 不動産賃貸事業については該当事項はありません。

(2) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
業務用厨房関連事業	12,855,640	9.1	2,861,068	232.5

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 不動産賃貸事業については該当事項はありません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
業務用厨房関連事業	14,953,205	7.3
不動産賃貸事業	346,531	1.1
合計	15,299,736	7.1

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

・今後の課題について

今後のわが国経済は、震災の復旧・復興需要による景気押し上げが期待される一方、海外経済の先行き不安、夏場の電力問題等の引き続き不安定な状況で推移するものと思われます。

このような経済環境の中で、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は同業他社との差別化を図った高付加価値商品の販売を推進し積極的な営業活動を展開して売上高のさらなる回復ならびに利益の確保を目指しております。

今後の課題としましては、単品販売の強化を図るため、より競争力のある商品を重点的に拡販し、24時間365日サービス体制を更に充実したものにす所存であります。

またリスク管理とコンプライアンスの強化を図ってまいります。

・財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

1. 会社の支配に関する基本方針

当社は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社の取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。特定の者の大規模買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、大規模な株式の買付けの中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益を著しく毀損するもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が大規模な株式の買付けの内容について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、経営理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値・株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならぬと考えております。従いまして、企業価値・株主共同の利益を毀損するおそれのある大規模買付者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えており、これをもって会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針としております。

2. 会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少等の構造的変化の進展、また、食生活の一層の多様化などめまぐるしいものがあります。このような経営環境下において、当社では企業価値向上の取組みとして、外食産業を中心とする業界動向に関する情報収集の強化を図ることにより常に変化していく顧客のニーズに的確に対応し、24時間365日サービス体制といったアフターサービスの更なる向上に取組むことで、取引先からの信頼を更に強固なものにしていく所存であります。当社グループは業務用厨房機器発展の一翼を担う企業としての自負を基本に、保守契約の推進・自社商品の販売促進等商品差別化の推進を行って参ります。また、自社商品を使用して頂くことによる効率的で安全性の高い作業環境の提案及びお客様のニーズを最優先に考えた提案セールス・戦略的営業の推進を図り、高付加価値商品の重点販売等を販売戦略として、積極的に事業を展開していく所存であります。今後の課題としては、更なる単品販売の強化を図っていくなかで、コーヒーマシン・マルチクッカー及びスチーム&コンベクションオープン等競争力のある商品を重点的に拡販するとともに、24時間365日サービス体制の一層の充実を目指してまいります。また、当社ではPotential Customer（潜在的な力を持ったお客様）、Previous Customer（以前のお客様）への営業をPC営業と称して、既存顧客の掘り起こしをするなど、こうしたお客様への営業基盤の強化も図っております。さらに、当社では「物売るのは人である」の観点に立ち、人材教育についても積極的に行っております。

社員教育の一環としまして、平成19年6月に埼玉県日高市に流通センターと研修施設を新設しました。同施設は150名収容の会議室、40名収容の宿泊設備、150平方メートルのテストキッチン等を備え、同施設を社員研修のみならず、お客様へのセミナーの場としてフルに活用し、受注に結びつくなどの効果がでております。

不動産賃貸事業においては、優良な入居者の確保をすることにより、安定的な収益の確保に努めてまいります。当社はこれらの施策により、安定した業績の確保と健全な財務体質を構築し、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益の確保・向上に取り組んでまいります。

3. 会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、企業価値・株主共同の利益の保護及び株主の皆様に大規模な買付けに応じるか否かを適切に判断して頂く時間を確保することを目的として、大規模な買付けに関するルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定し、特定株主グループの議決権割合を25%以上とする当社株式等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が25%以上となる当社株式等の買付行為（いずれについても当社取締役会があらかじめ同意したものを除き、以下、当該買付行為を「大規模買付行為」といい、大規模買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。）がなされる場合を適用対象とします。当社取締役会が設定する大規模買付ルールにおいては、大規模買付者が事前に当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、それに基づき当社取締役会が当該大規模買付行為について評価・検討を行うための期間が経過した後大規模買付行為が開始されるというもので、その概要は以下のとおりです。

(1) 意向表明書の当社への事前提出

大規模買付者には、大規模買付行為に先立ち、当社取締役会に対し、大規模買付ルールに従う旨の誓約及び意向表明書をご提出いただきます。

(2) 大規模買付者からの情報の提供

当社取締役会は、上記（1）の意向表明書受領後10営業日以内に、大規模買付者から当社取締役会に対して当初提供いただくべき、株主の皆様の判断及び取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）のリストを当該大規模買付者に交付します。当初提供していただいた情報を精査した結果、それだけでは不十分と認められる場合には、当社取締役会は、大規模買付者に対して本必要情報が揃うまで追加的に情報提供を求めます。

(3) 取締役会による評価期間

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付の場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）とします。従って、大規模買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとします。当社取締役会は、提供された本必要情報を十分に評価・検討し、独立委員会からの勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表します。

(4) 独立委員会の設置

本プランにおいて、大規模買付者が当社取締役会に提供すべき情報の範囲、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したか否か、大規模買付行為が企業価値・株主共同の利益を著しく損なうか否か及び対抗措置をとるか否か等の検討及び判断については、その客観性、公正さ及び合理性を担保するため、当社は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置しております。当社取締役会は上記の判断を行うにあたりかかる独立委員会に必ず諮問することとし、独立委員会は諮問を受けた事項について当社取締役会に対して勧告することとします。

(5) 大規模買付行為がなされた場合の対応

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案及び当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮のうえ、ご判断いただくこととなります。但し、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断した場合には、当社取締役会は企業価値及び株主共同の利益の確保・向上を目的として、例外的に新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置を取ることがあります。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値・株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したか否か及び対抗措置の発動の適否は、独立委員会の勧告を最大限尊重し、外部専門家等の意見も参考にして当社取締役会が決定します。具体的にいかなる手段を講じるかについては、その時点で最も適切と当社取締役会が判断したものを選択することとします。

4. 本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値・株主共同の利益に合致し、当社の役員の地位の維持を目的とするものでないことについて

(1) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足しています。

(2) 当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上の目的をもっていること

本プランは、大規模買付行為が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを当社株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能にするものであり、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させるという目的を持ったものです。

(3) 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守していない、あるいは大規模買付ルールを遵守していても株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらす買付である場合や株主に株式の売却を事実上強要するおそれがある買付である場合など、予め定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ対抗措置が発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するために独立委員会の勧告を経るなどの仕組みを確保しているものといえます。

(4) 株主意思を重視するものであること

当社は、平成22年6月29日開催の定時株主総会における、株主の皆様のご承認に基づき、本プランを更新いたしました。

本プランは、有効期間を平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとするいわゆるサンセット条項が付されており、また、本プランの有効期間の前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなり、その意味で、本プランの消長及び内容は、当社株主の合理的意思に依拠したものとなっております。

(5) デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができるものであり、当社株式を大量に買付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は取締役の期差任期制を採用していないため、本プランは、スローハンド型買収防衛策（取締役の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

4 【事業等のリスク】

(1) 依存度の高い販売先について

当社グループは、業務用厨房関連事業の売上高が97.6%を占めております。

業務用厨房機器の販売先として外食産業の売上高が30.0%、デパート・スーパー等売上高が10.5%となっており、これら2業種で40.5%を占めることとなっております。外食産業、デパート・スーパーともに景気の影響を多大に受ける販売先であり、今後の景気動向により当社の業績に影響を与える可能性があります。

(2) 原材料の調達について

当社グループに必要な資材調達につきましては、供給の安定、品質、価格の面から最適な調達先の選定を行っておりますが、需給状況などにより価格上昇する可能性があります。

(3) その他

当社グループの事業活動は様々なリスクを伴っており、上記に記載されたものがリスクの全てではありません。リスクに対しては、不断の対策を怠らず、その未然防止を図るとともに、リスクの発生の際はその影響を最小限に留めるように努めてまいります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの分析・検討内容は原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としています。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断していますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5 経理の状況 の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表における重要な見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

収益の認識基準

当社グループの売上高は、出荷基準または検収基準により売上計上しております。売上計上基準の適用は当社の販売管理規程に基づいて決定しております。

貸倒引当金の計上基準

当社グループは売上債権等の貸倒損失に備えて回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しております。将来、顧客の財政状況が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上または貸倒損失が発生する可能性があります。

有価証券の減損処理

当社グループは金融機関や販売または仕入に係る取引会社の株式を保有しております。これらの株式は株式市場の価格変動リスクを負っているため、合理的な基準に基づいて有価証券の減損処理を行っております。減損処理に係る合理的な基準は、第5 経理の状況の有価証券関係の注記に記載しております。将来、株式市場が悪化した場合には多額の有価証券評価損を計上する可能性があります。

繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して将来の課税所得を合理的に見積もっております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するので、その見積額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

(2) 財政状態の分析

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて10.6%増加し、80億3百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金が4億72百万円、現金及び預金が3億64百万円増加したことなどによるものです。（なお、現金及び預金の詳しい内容につきましては、連結キャッシュ・フロー計算書をご参照ください。）

固定資産は、前連結会計年度末に比べて4.1%減少し、76億63百万円となりました。これは主として減価償却の実施額3億17百万円による償却資産の減少などによるものです。

この結果総資産は、前連結会計年度末に比べて2.9%増加し、156億67百万円となりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて16.7%増加し、69億71百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金の増加6億74百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加1億50百万円、未払法人税等の増加1億55百万円などによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて30.2%増加し、13億95百万円となりました。これは主として、長期借入金の増加2億87百万円などによるものです。

純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べて10.8%減少し、73億0百万円となりました。これは主として当期純利益1億25百万円（前年同期は1億3百万円の当期純利益）を計上し、株主配当金の支払額1億18百万円、自己株式の取得9億9百万円が相殺されたものです。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は前連結会計年度末より64百万円増加し、当連結会計年度末には25億61百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

（詳細は、「1.業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。）

(3) 経営成績の分析

売上高

当社グループの基本方針である、自社商品を使用して頂くことによる効率的で安全性の高い作業環境の提案及びお客様のニーズを最優先に考えた提案セールス・戦略的営業を推進してまいりました。また高付加価値商品の重点販売等を積極的に実施し、全社一丸となった営業努力の結果、売上高は152億99百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

売上総利益

売上総利益は2億49百万円増加し39億99百万円（前年同期比6.7%増）となりましたが、売上総利益率は売上原価率が前年同期に比し0.1%上昇した影響から26.1%と前年同期に比し0.1ポイント減少いたしました。

営業利益

販売費及び一般管理費が1億22百万円（前年同期比3.5%増）増加しましたが、売上総利益が2億49百万円上昇したことにより、営業利益は4億9百万円（前年同期比45.0%増）と前年同期に比し1億27百万円増加いたしました。

経常利益

営業外損益においては、営業外収益は49百万円（前年同期比4.8%減）、営業外費用は33百万円（前年同期比24.1%増）を計上いたしました。この結果、経常利益は4億26百万円（前年同期比38.3%増）計上いたしました。

当期純利益

固定資産売却益8百万円を特別利益及び減損損失8百万円などの特別損失9百万円を計上いたしました。その結果、税金等調整前当期純損益は4億24百万円の税金等調整前当期純利益（前年同期比41.4%増）、当期純損益は1億25百万円の当期純利益（前年同期比20.7%増）となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度の設備投資の総額は66百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 業務用厨房関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、提出会社において、本社ビルの補修、営業車輛の更新等を中心とする総額51百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) 不動産賃貸事業

当連結会計年度の主な設備投資は、賃貸物件の建物の補修を中心とする総額14百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) 全社共通

当連結会計年度の主な設備投資は小額であり、内容的にも特記すべき事項はありません。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具等	土地 (面積㎡)	その他	合計	
流通センター (埼玉県日高市)	管理業務	流通倉庫	661,992	2,972	233,477 (9,151.59)		898,442	10
本社及び本社別館 (東京都渋谷区)	管理業務・ 業務用厨房 関連事業	その他 設備	276,741	40,627	502,047 (765.45)		819,416	127
仙台支店 (宮城県仙台市若林区) 他6支店7営業所	業務用厨房 関連事業	販売設備 (注)3	435,557	15,368	1,021,766 (6,311.30)		1,472,691	89
代々木上原マンション (東京都渋谷区) 他19施設	不動産賃貸 事業	賃貸設備 (注)4.5	1,581,816		874,538 (6,803.68)	31,555	2,487,910	

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、借地権の設定額であり、建設仮勘定は含まれておりません。

3 仙台支店他3支店2営業所は連結会社以外へ建物の一部を賃貸しております。

4 仙台支店他3支店2営業所建物の一部を賃貸設備として使用しております。なお、これら設備の帳簿価額の土地及び面積は、上記販売設備欄に含めて記載しております。

5 上記の他、主要な賃借設備として以下のものがあります。

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	従業員数 (人)	年間賃借料 (千円)
横浜支店 (神奈川県横浜市南区) 他8支店22営業所	業務用厨房関連事業	販売設備	170	81,239

(2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具等	土地 (面積㎡)	その他	合計	
エース工業(株)	本社 (埼玉県狭山市) (注)2	管理業務・ 業務用厨房 関連事業	業務用厨房機 械製造設備	13,060 11,320	7,849	()	31,555 31,555	52,465 42,875	19
サンバイク(株)	本社 (福岡県久留米市) (注)3	管理業務・ 業務用厨房 関連事業	業務用厨房機 械製造設備	2,881	6,739	()		9,620	12

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額の 内金額は提出会社から賃借しているものであり、「その他」は借地権の設定額であります。

3 土地は提出会社以外から賃借しているものであります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備計画の完了
該当事項はありません。

(2) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。

(3) 重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	72,000,000
計	72,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,818,257	23,818,257	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は500株であります。
計	23,818,257	23,818,257		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

平成24年3月31日現在

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年3月13日	1,950,000	23,818,257	419,250	3,235,546	419,250	2,964,867

(注) 第三者割当：発行株式数 1,950,000株、発行価格 430円、資本組入額 215円

主な割当先 (株)横浜銀行、(株)インテリックス、ホシザキ電機(株) 他8社等

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 500株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		26	26	125	21		2,750	2,948	
所有株式数(単元)		7,973	1,096	10,143	1,226		26,868	47,306	165,257
所有株式数の割合(%)		16.86	2.32	21.44	2.59		56.79	100.00	

(注) 1 自己株式5,221,881株は「個人その他」に10,443単元(5,221,500株)及び「単元未満株式の状況」に381株それぞれ含めて記載しております。

2 上記「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ7単元(3,500株)及び200株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1丁目2番26号	1,172	4.92
北沢持株会	東京都渋谷区東2丁目23番10号	1,089	4.57
北沢産業従業員持株会	東京都渋谷区東2丁目23番10号	988	4.15
福島工業株式会社	大阪府大阪市西淀川区御幣島3丁目16番11号	778	3.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	594	2.50
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目1番1号	450	1.89
株式会社インテリックス	東京都渋谷区道玄坂1丁目20番2号	370	1.55
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目5番1号	360	1.51
サンデン株式会社	群馬県伊勢崎市寿町20番地	300	1.26
ホシザキ電機株式会社	愛媛県豊明市栄町南館3丁目16番	250	1.05
計		6,353	26.67

(注) 1 当社は自己株式5,221,881株を所有しておりますが、上記大株主の状況の記載から除いております。

2 前事業年度末において主要株主であった金銭信託以外の金銭の信託受託者ソシエテジェネラル信託銀行は、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,221,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,431,500	36,863	同上
単元未満株式	普通株式 165,257		同上
発行済株式総数	23,818,257		
総株主の議決権		36,863	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ3,500株(議決権の数7個)及び200株含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が381株含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 北沢産業株式会社	東京都渋谷区東二丁目 23番10号	5,221,500		5,221,500	22.08
計		5,221,500		5,221,500	22.08

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第3号による普通株式の取得
会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成24年2月16日)での決議状況 (取得日 平成24年2月17日)	5,100,000	912,900
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	5,080,000	909,320
残存決議株式の総数及び価額の総額	20,000	3,580
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0.4	0.4
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	0.4	0.4

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	2,002	328
当期間における取得自己株式	421	71

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	5,221,881		5,222,302	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと考えており、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率（ROE）の向上に努めるとともに、安定的な配当の継続を維持しつつ、業績に応じ積極的に株主の皆様へ還元していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であり、

当事業年度の配当につきましては、上記の方針に基づき、業績を踏まえて、1株あたり5円を実施することを決定いたしました。

内部留保資金につきましては、引続き将来の事業展開に向けた財務体質の強化や市場ニーズに応える商品開発のための資金需要に備えるとともに、安定的な配当を通じて今後も株主の皆様のご期待に添うべく努力してまいります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
平成24年6月28日定時株主総会決議	92,981	5.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	490	320	204	204	198
最低(円)	253	109	163	133	141

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	160	157	190	198	194	189
最低(円)	148	141	150	149	170	168

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		尾崎 光行	昭和22年3月10日生	昭和44年4月 平成2年1月 平成2年6月 平成4年10月 平成5年10月 平成8年1月 平成8年4月 平成8年7月 平成9年10月 平成13年4月 平成14年6月 平成16年5月 平成17年3月 平成17年4月 平成21年12月 平成23年4月 当社入社 経営企画室長 取締役業務部長 常務取締役業務部長兼海外事業部 担当 取締役大阪支店長兼近畿・中国ブ ロック担当 取締役業務部長 常務取締役業務部長 常務取締役管理本部・営業本部統 括担当 常務取締役業務部長 専務取締役 代表取締役社長 ファルコン・ジャパン株式会社 (平成19年10月1日付で提出会社 が吸収合併)代表取締役社長 取締役株式会社北沢キープサービ ス担当 代表取締役社長 代表取締役社長兼営業戦略本部担 当兼コーヒーマシン販売促進部担 当 代表取締役社長(現任)	(注)3	96
常務取締役	東日本営業 本部長	佐竹 隆司	昭和23年8月7日生	昭和46年4月 平成9年10月 平成10年6月 平成13年7月 平成16年4月 平成17年4月 平成17年4月 平成21年12月 平成23年4月 平成23年6月 当社入社 購買部長 取締役購買部長 取締役技術・購買本部購買部長 取締役購買部長 取締役流通センター担当 常務取締役管理本部長 常務取締役関東ブロック担当 常務取締役北海道・東北・関東ブ ロック担当 常務取締役東日本営業本部長(現 任)	(注)3	29
取締役	西日本営業 本部長	後藤 誠隆	昭和25年4月7日生	昭和49年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成17年1月 平成17年4月 平成17年4月 平成17年6月 平成18年4月 平成19年4月 平成21年12月 平成23年6月 当社入社 営業推進本部長 取締役営業推進本部長 取締役東日本営業本部関東ブロッ ク担当 取締役九州ブロック担当 取締役営業戦略本部長 取締役営業戦略本部長兼中国・九 州ブロック担当 取締役営業戦略本部長兼コーヒー マシン販売促進部長兼九州ブロッ ク担当 取締役営業戦略本部長兼コーヒー マシン販売促進部長兼関東ブロッ ク担当 取締役中部・北陸・近畿ブロック 担当 取締役西日本営業本部長(現任)	(注)3	21

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	本社営業本部長兼プロジェクトグループ長兼建装部長	酒井保太郎	昭和21年11月5日生	昭和48年4月 平成13年4月 平成17年6月 平成17年10月 平成19年10月 平成20年10月 平成23年4月 平成23年6月	当社入社 営業本部プロジェクトグループ長 取締役プロジェクトグループ長 取締役プロジェクトグループ長兼購買部担当 取締役プロジェクトグループ長兼購買部長 取締役プロジェクトグループ長 取締役プロジェクトグループ長兼建装部長 取締役本社営業本部長兼プロジェクトグループ長兼建装部長(現任)	(注)3	23
取締役	DS事業部長	杉浦英助	昭和27年3月2日生	昭和50年3月 平成17年3月 平成17年4月 平成17年4月 平成17年6月 平成19年10月 平成20年1月 平成20年5月 平成23年4月	当社入社 当社退社 当社入社 管理本部総務部長 取締役管理本部総務部長 取締役管理本部総務部長兼建装部長 取締役建装部長 取締役建装部長兼キッチンコンサルタント室長 取締役DS事業部長(現任)	(注)3	28
取締役	管理本部長	石塚洋	昭和29年3月1日生	昭和52年4月 平成17年6月 平成17年7月 平成18年6月 平成21年12月	株式会社北陸銀行入行 同経営管理部上席推進役 当社(出向受入)管理本部経理部長 当社入社 取締役管理本部経理部長 取締役管理本部長(現任)	(注)3	29
取締役	営業戦略本部長兼コーヒーマシン販売促進部長兼キッチンコンサルタント室長	小山栄樹	昭和32年1月2日生	昭和54年4月 平成7年9月 平成8年7月 平成16年4月 平成23年4月 平成23年6月	当社入社 札幌支店長 北海道ブロック長 執行役員北海道ブロック長 執行役員営業戦略本部長兼コーヒーマシン販売促進部長兼キッチンコンサルタント室長 取締役営業戦略本部長兼コーヒーマシン販売促進部長兼キッチンコンサルタント室長(現任)	(注)3	23
取締役		成戸應之	昭和14年7月13日生	昭和39年4月 平成11年6月 平成12年6月 平成18年6月	株式会社北陸銀行入行 北銀ソフトウェア株式会社取締役社長 株式会社ゴールドウイン監査役(当社取締役(現任))	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		木村 誠人	昭和25年11月19日生	昭和49年5月 昭和56年6月 平成14年1月 平成16年4月 平成19年4月 平成19年10月 平成19年11月 平成23年6月	当社入社 いわき営業所長 仙台支店長 執行役員東北ブロック長 執行役員購買部長 エース工業株式会社代表取締役専務 エース工業株式会社代表取締役社長 当社監査役(現任)	(注)5	7
監査役		佐藤 博信	昭和16年6月23日	昭和39年3月 昭和59年10月 平成17年10月 平成18年3月 平成18年6月	朝日土地興行株式会社入社 ㈱新日本証券調査センター入社 (現株式会社新光総合研究所) 新光証券株式会社に移籍(現みずほ証券株式会社) 当社非常勤顧問 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役		藤森 一喜	昭和16年2月24日生	昭和34年6月 昭和38年7月 平成3年8月 平成19年6月	世田谷区役所採用 藤森会計事務所入所 同承継(現任) 当社監査役(現任)	(注)5	-
監査役		井上 晴孝	昭和27年4月7日生	昭和53年9月 昭和57年7月 昭和60年4月 昭和63年4月 平成19年6月	株式会社辰巳法律研究所入所 同退所 弁護士登録(東京弁護士会所属) 浅見東司法律事務所入所 井上晴孝法律事務所開設(現任) 当社監査役(現任)	(注)5	-
計							258

- (注) 1 取締役成戸應之は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2 監査役佐藤博信、藤森一喜及び井上晴孝の3名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
4 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。
5 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、法令はもとよりその精神を遵守することが企業の基本的な責務と認識し、公正な企業活動を通じ、株主・顧客の皆様をはじめとする社会から信頼され、社会に貢献できる企業を目指しております。そのためにも、財務情報をはじめ当社の経営活動について、迅速な情報開示を行っております。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社は監査役制度採用会社であり、会社の機関として会社法に規定する株主総会、取締役会及び監査役会を設置しております。また、社長直属の監査室では、定期的に主に支店・営業所の業務執行状況について監査を実施しております。

ロ 企業統治の体制の概念図



ハ 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システム全般の基本方針の決定並びに内部統制システムの構築についての指導・監督は取締役会直轄下に内部統制評価委員会が行っており、内部統制評価委員会には監査役がオブザーバーとして関与しております。

ニ リスク管理体制の整備の状況

当社の業務にはさまざまなリスクが伴っております。これらのリスクを回避又は低減するため、リスク管理基本規程を制定し、リスクの発生予防、発生後の迅速・整然かつ適切な対応が可能なりリスク管理体制を図っております。

また、顧問弁護士とは顧問契約に基づき必要に応じて助言を受けております。

ホ 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）の会社法第423条第1項責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除できる旨定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

ヘ 監査役責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、監査役（監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除できる旨定款に定めております。これは、監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

ト 社外取締役、社外監査役及び会計監査人の責任免除

当社と社外取締役及び社外監査役は会社法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

また、当社と会計監査人 治田秀夫、会計監査人 高橋正一は会社法第427条第1項の定めに基づき責任限定契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任は、法令の定める額に限定しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査室は代表取締役社長直属の組織として設置され、専任1名で構成されております。監査役監査および会計監査人監査と連携をはかりながら、年間監査計画に基づき監査を行っております。内部監査の結果は、社長に報告され、改善事項の提言および改善状況の確認等を行っております。

監査役会には常勤監査役1名、社外監査役3名が就任しており、常時取締役会に参加しております。取締役会は毎月開催される定時取締役会のほかに必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会での議論は十分なものであり、その経営監督機能は有効に機能していると考えております。

また監査役、監査室及び会計監査人は各々の監査活動の効率化及び更なる質的向上に向けて、相互に様々な連携を図っております。

社外取締役及び社外監査役との関係

社外取締役となる成戸應之は、上場会社の経営における豊富な経験と幅広い見識をもとに、公正かつ独立的な立場から経営の監督とチェック機能を期待して専任いたしました。

社外監査役となる佐藤博信、藤森一喜及び井上晴孝は、幅広い見識と専門的な経験を基に、第三者の視点からの公正な監査を期待して専任いたしました。

なお、井上晴孝は株式会社東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

役員の報酬等の内容

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	75,600	69,600			6,000	8
監査役 (社外監査役を除く)	9,600	7,200			2,400	2
社外役員	9,600	9,600				4

(注) 取締役の報酬額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

ロ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

重要性がないため記載しておりません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

会社への貢献、職務の内容・重要度及び職務遂行の状況並びに在任年数等を総合的に勘案し報酬等を決定しております。

なお、役員の報酬総額については、平成5年6月29日開催の第46期定時株主総会において月額20,000千円以内(ただし、使用人兼務役員の使用人部分を除く)、監査役は平成2年6月28日開催の第43期定時株主総会において月額3,000千円以内と決議され定めております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 33銘柄

貸借対照表計上額の合計額 846,641千円

ロ 保有目的が純投資以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	534,918	86,656	取引先との関係強化のため
サンデン(株)	220,000	76,780	取引先との関係強化のため
(株)歌舞伎座	20,000	71,400	取引先との関係強化のため
(株)カナデン	126,855	65,330	取引先との関係強化のため
昭和化学工業(株)	255,000	62,985	取引先との関係強化のため
大和ハウス工業(株)	57,000	58,254	取引先との関係強化のため
福島工業(株)	50,000	49,950	取引先との関係強化のため
(株)フジ	24,227	39,344	取引先との関係強化のため
(株)丹青社	94,000	36,284	取引先との関係強化のため
(株)インテリックス	714	34,450	取引先との関係強化のため
(株)きんでん	42,000	31,794	取引先との関係強化のため
ホシザキ電機(株)	20,000	30,320	取引先との関係強化のため
(株)オオバ	205,000	25,625	取引先との関係強化のため
(株)J B イレブン	37,000	22,940	取引先との関係強化のため
(株)ヤマザワ	18,421	21,313	取引先との関係強化のため
東京テアトル(株)	184,000	20,792	取引先との関係強化のため
(株)イズミ	12,662	15,004	取引先との関係強化のため
(株)ダイナック	11,000	8,833	取引先との関係強化のため
富士急行(株)	20,000	8,560	取引先との関係強化のため
(株)ライフコーポレーション	5,500	6,869	取引先との関係強化のため

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	534,918	84,517	取引先との関係強化のため
昭和化学工業(株)	255,000	81,345	取引先との関係強化のため
(株)歌舞伎座	20,000	79,300	取引先との関係強化のため
(株)カナデン	129,199	67,829	取引先との関係強化のため
大和ハウス工業(株)	57,000	62,358	取引先との関係強化のため
福島工業(株)	50,000	59,500	取引先との関係強化のため
サンデン(株)	220,000	59,400	取引先との関係強化のため
(株)フジ	25,665	47,326	取引先との関係強化のため
ホシザキ電機(株)	20,000	39,040	取引先との関係強化のため
(株)オオバ	205,000	32,595	取引先との関係強化のため
(株)丹青社	94,000	28,294	取引先との関係強化のため
(株)ヤマザワ	19,747	27,803	取引先との関係強化のため
(株)きんでん	42,000	26,838	取引先との関係強化のため
(株)インテリックス	714	24,026	取引先との関係強化のため
(株)J B イレブン	37,000	23,347	取引先との関係強化のため
東京テアトル(株)	184,000	22,080	取引先との関係強化のため
(株)イズミ	12,662	19,765	取引先との関係強化のため
富士急行(株)	20,000	10,040	取引先との関係強化のため
(株)ダイナック	11,000	9,152	取引先との関係強化のため
(株)ライフコーポレーション	5,500	7,480	取引先との関係強化のため

八 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

イ 業務を執行した公認会計士

公認会計士 治田 秀夫 (公認会計士 治田秀夫事務所)

公認会計士 高橋 正一 (公認会計士 高橋正一事務所)

ロ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士試験合格者 3名

八 審査体制

審査につきましては、当社との間に公認会計士法に規定する利害関係が無く、かつ、当社の監査に従事していない他の公認会計士により、監査計画確定前と監査意見表明前に実施されております。

取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

イ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経済環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

ロ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行なうことができる旨定款に定めております。これは、株主の皆様への利益還元をより機動的に行なうことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	26,000		26,000	
連結子会社				
計	26,000		26,000	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、会社の規模・業務の特性等の要素を勘案して見積もられた監査予定日数から算出された金額について、当社監査役会の審議を受けた後に決定しております。なお、当社と監査公認会計士等の独立性の保持を確認した契約を締結しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、公認会計士治田秀夫、公認会計士高橋正一の監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の最新情報の取得に努めております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,496,840	2,861,488
受取手形及び売掛金	3,349,859	3,822,328 ²
商品	1,218,767	1,170,381
製品	4,146	4,245
仕掛品	11,074	9,306
原材料及び貯蔵品	47,517	49,122
繰延税金資産	58,324	56,128
その他	93,104	72,561
貸倒引当金	43,200	41,600
流動資産合計	7,236,433	8,003,963
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,127,830	6,143,733
減価償却累計額	2,930,572	3,106,036
建物及び構築物（純額）	3,197,257	3,037,696
機械装置及び運搬具	464,536	471,428
減価償却累計額	421,100	425,205
機械装置及び運搬具（純額）	43,435	46,222
土地	2,697,889	2,675,713
その他	484,368	486,342
減価償却累計額	424,780	437,096
その他（純額）	59,587	49,245
有形固定資産合計	5,998,169	5,808,878
無形固定資産		
ソフトウェア	150,982	64,686
その他	54,778	54,471
無形固定資産合計	205,760	119,158
投資その他の資産		
投資有価証券	805,894	846,641
長期貸付金	1,199	1,499
長期預金	300,000	200,000
繰延税金資産	422,551	382,079
その他	368,628	417,559
貸倒引当金	108,093	112,493
投資その他の資産合計	1,790,180	1,735,286
固定資産合計	7,994,110	7,663,322
資産合計	15,230,543	15,667,285

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,406,617	4,081,246
短期借入金	1 2,119,000	1 2,119,000
1年内返済予定の長期借入金	-	150,000
未払法人税等	78,456	233,460
賞与引当金	83,549	94,009
その他	289,157	294,258
流動負債合計	5,976,780	6,971,974
固定負債		
退職給付引当金	793,643	812,122
役員退職慰労引当金	245,396	262,670
繰延税金負債	123	119
長期借入金	-	287,500
その他	32,853	32,898
固定負債合計	1,072,017	1,395,310
負債合計	7,048,798	8,367,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,235,546	3,235,546
資本剰余金	2,965,137	2,965,137
利益剰余金	2,028,806	2,035,782
自己株式	31,630	941,278
株主資本合計	8,197,860	7,295,187
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,115	4,812
その他の包括利益累計額合計	16,115	4,812
純資産合計	8,181,744	7,300,000
負債純資産合計	15,230,543	15,667,285

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	14,280,005	15,299,736
売上原価	¹ 10,530,321	¹ 11,300,225
売上総利益	3,749,684	3,999,510
販売費及び一般管理費	² 3,467,173	² 3,589,887
営業利益	282,510	409,623
営業外収益		
受取利息	2,399	2,846
受取配当金	11,461	9,667
受取家賃	10,587	9,896
為替差益	4,491	-
受取補償金	-	12,405
その他	23,545	15,139
営業外収益合計	52,485	49,955
営業外費用		
支払利息	18,914	18,845
支払手数料	7,493	13,957
為替差損	-	267
その他	241	-
営業外費用合計	26,649	33,071
経常利益	308,346	426,507
特別利益		
固定資産売却益	³ 60	³ 8,253
投資有価証券売却益	22,008	-
特別利益合計	22,068	8,253
特別損失		
固定資産売却損	⁴ 4	⁴ 771
固定資産除却損	⁵ 2,293	⁵ 576
投資有価証券評価損	27,238	-
会員権評価損	450	100
減損損失	-	⁶ 8,520
特別損失合計	29,986	9,968
税金等調整前当期純利益	300,428	424,792
法人税、住民税及び事業税	96,151	270,319
法人税等調整額	100,411	29,105
法人税等合計	196,562	299,424
少数株主損益調整前当期純利益	103,865	125,367
当期純利益	103,865	125,367

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	103,865	125,367
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,827	20,928
その他の包括利益合計	24,827	20,928
包括利益	79,037	146,296
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	79,037	146,296
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,235,546	3,235,546
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,235,546	3,235,546
資本剰余金		
当期首残高	2,965,137	2,965,137
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,965,137	2,965,137
利益剰余金		
当期首残高	2,043,348	2,028,806
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	103,865	125,367
当期変動額合計	14,541	6,975
当期末残高	2,028,806	2,035,782
自己株式		
当期首残高	31,091	31,630
当期変動額		
自己株式の取得	538	909,648
当期変動額合計	538	909,648
当期末残高	31,630	941,278
株主資本合計		
当期首残高	8,212,941	8,197,860
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	103,865	125,367
自己株式の取得	538	909,648
当期変動額合計	15,080	902,672
当期末残高	8,197,860	7,295,187

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	8,711	16,115
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	24,827	20,928
当期末残高	16,115	4,812
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	8,711	16,115
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	24,827	20,928
当期末残高	16,115	4,812
純資産合計		
当期首残高	8,221,653	8,181,744
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	103,865	125,367
自己株式の取得	538	909,648
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	39,908	881,744
当期末残高	8,181,744	7,300,000

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	300,428	424,792
減価償却費	329,465	317,314
有価証券及び投資有価証券売却損益 (は益)	22,008	-
有形固定資産除却損	2,293	576
有形固定資産売却損益 (は益)	60	7,482
投資有価証券評価損益 (は益)	27,238	-
会員権売却損益 (は益)	4	-
会員権評価損	450	100
貸倒引当金の増減額 (は減少)	8,013	2,800
賞与引当金の増減額 (は減少)	34,506	10,460
退職給付引当金の増減額 (は減少)	17,475	18,478
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	8,496	17,273
受取利息及び受取配当金	13,860	12,514
支払利息	18,914	18,845
売上債権の増減額 (は増加)	376,480	472,468
たな卸資産の増減額 (は増加)	245,045	43,372
仕入債務の増減額 (は減少)	33,844	674,629
未払消費税等の増減額 (は減少)	12,345	10,631
減損損失	-	8,520
その他	112,018	20,875
小計	813,320	1,034,455
利息及び配当金の受取額	14,130	11,779
利息の支払額	19,158	18,991
法人税等の支払額	66,613	122,352
営業活動によるキャッシュ・フロー	741,678	904,890
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	100,000	200,000
定期預金の払戻による収入	100,000	-
投資有価証券の取得による支出	5,892	6,371
投資有価証券の売却による収入	31,008	-
会員権の売却による収入	95	100
有形固定資産の取得による支出	26,567	63,342
有形固定資産の売却による収入	105	22,042
無形固定資産の取得による支出	6,039	1,591
貸付けによる支出	1,289	800
貸付金の回収による収入	30	260
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,549	249,702

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	200,000	-
長期借入れによる収入	-	450,000
長期借入金の返済による支出	-	12,500
自己株式の取得による支出	538	909,648
配当金の支払額	118,407	118,391
財務活動によるキャッシュ・フロー	318,946	590,540
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	414,183	64,647
現金及び現金同等物の期首残高	2,082,657	2,496,840
現金及び現金同等物の期末残高	2,496,840	2,561,488

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 3 社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

(2) すべての子会社を連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数

該当事項はありません。

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ等

時価法を採用しております。

ハ たな卸資産

商品

個別法による原価法

製品および仕掛品

売価還元法による原価法

原材料および貯蔵品

最終仕入原価法

たな卸資産の貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械装置及び運搬具 4～7年

なお、取得価額が100千円以上200千円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

ロ 無形固定資産

定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

八 長期前払費用

定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与支給にあてるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

八 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社および主要な連結子会社は当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、一部の連結子会社は簡便法を採用しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(1年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、それぞれ発生の日連結会計年度に費用処理することとしております。

二 役員退職慰労引当金

当社は役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

イ ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

ロ 据付工事を含む販売契約に係る収益の計上基準

当連結会計年度に着手した据付工事を含む販売契約のうち、納品開始から90日以上で、進捗部分について成果の確実性が認められる販売契約については工事進行基準(販売の原価比例法)を、その他の据付工事を含む販売契約については検収基準を適用しております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により、円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式であります。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	3,600,000千円	3,600,000千円
借入実行残高	2,100,000千円	2,100,000千円
差引額	1,500,000千円	1,500,000千円

- 2 (当連結会計年度)

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計期間末日手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

受取手形 81,874千円

- 3 (前連結会計年度)

受取手形裏書譲渡高は2,771千円であります。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

- 1 (前連結会計年度)

通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は51,272千円であります。

(当連結会計年度)

通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は46,291千円であります。

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
給料及び手当	1,829,674千円	1,831,417千円
賞与引当金繰入額	75,540千円	87,200千円
退職給付費用	17,388千円	83,679千円
貸倒引当金繰入額	6,998千円	3,836千円
役員退職慰労引当金繰入額	24,400千円	25,673千円
福利厚生費	297,032千円	326,179千円
旅費及び交通費	122,360千円	123,043千円

3 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
車輛運搬具の売却益	60千円	40千円
土地の売却益	千円	8,212千円

4 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
会員権の売却損	4千円	千円
車両運搬具の売却損	千円	771千円

5 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物の除却損	199千円	千円
機械装置及び運搬具の除却損	1,248千円	481千円
工具器具及び備品の除却損	845千円	95千円

6 減損損失

当連結会計年度（自 平成23年3月31日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失計上額
長野県松本市	賃貸用住宅	土地・建物	8,520千円

当社グループは、業務用厨房関連事業用資産については管理会計上の区分を基礎として各地域ブロックを、不動産賃貸事業用資産について個別物件単位を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として資産のグルーピングを行いました。

長野県松本市にある賃貸用住宅において、地価の下落や収益の動向を勘案し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

減損損失の内訳は、土地8,520千円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価に準ずる方法により算出しております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度（自 平成23年3月31日 至 平成24年3月31日）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他の有価証券評価差額金

当期発生額	34,486千円
組替調整額	千円
税効果調整前	34,486千円
税効果額	13,557千円
その他の有価証券評価差額金	20,928千円
その他の包括利益合計	20,928千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	23,818,257			23,818,257

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	136,770	3,109		139,879

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 3,109株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年 6月29日 定時株主総会	普通株式	118,407	5.00	平成22年 3月31日	平成22年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	118,391	5.00	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	23,818,257			23,818,257

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	139,879	5,082,002		5,221,881

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,002株
平成24年 2月16日取締役会の決議に基づく取得 5,080,000株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	118,391	5.00	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	92,981	5.00	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金勘定	2,496,840千円	2,861,488千円
預入機関が3ヶ月を 超える定期預金	千円	300,000千円
現金及び現金同等物の期末残高	2,496,840千円	2,561,488千円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(貸主側)

リース物件の取得価額、減価償却累計額および期末残高

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	建物及び構築物	合計
取得価額	758,838千円	758,838千円
減価償却累計額	233,107千円	233,107千円
期末残高	525,730千円	525,730千円

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	建物及び構築物	合計
取得価額相当額	758,838千円	758,838千円
減価償却累計額相当額	257,393千円	257,393千円
期末残高相当額	501,444千円	501,444千円

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	15,981千円	17,705千円
1年超	665,456千円	647,750千円
合計	681,437千円	665,456千円

受取リース料、減価償却費および受取利息相当額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
受取リース料	85,386千円	85,386千円
減価償却費	26,109千円	24,286千円
受取利息相当額	70,962千円	69,405千円

利息相当額の算定方法

リース料総額と見積残存価額の合計からリース物件の購入価額を控除した額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

1. ファイナンス・リース取引

(貸主側)

(1) リース投資資産の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
リース料債権部分	22,026千円	29,087千円
見積残存価額部分	千円	千円
受取利息相当額	18,142千円	24,284千円
リース投資資産	3,883千円	4,802千円

(その他流動資産に含めております。)

(2) リース投資資産に係るリース料債権部分の連結会計年度末日後の回収予定額

流動資産

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	リース投資資産
1年以内	5,127千円
1年超2年以内	5,127千円
2年超3年以内	5,127千円
3年超4年以内	4,638千円
4年超5年以内	1,965千円
5年超	40千円

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	リース投資資産
1年以内	7,335千円
1年超2年以内	7,335千円
2年超3年以内	6,846千円
3年超4年以内	4,173千円
4年超5年以内	2,248千円
5年超	1,149千円

2. オペレーティング・リース取引

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	13,445千円	13,445千円
1年超	164,807千円	151,208千円
合計	178,252千円	164,653千円

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	19,528千円	23,118千円
1年超	163,966千円	182,684千円
合計	183,494千円	205,803千円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金を基本とし、一時的な余資が生じた場合は安全性の高い金融資産で運用しております。また、運転資金は銀行借入にて調達しております。

デリバティブ取引は、外貨建資産・負債に係る為替相場の変動リスクを回避する目的のみで行うものとしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。また、その一部には、商品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。

借入金は、主に運転資金であり、全て1年以内の返済期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿って取引先ごとに期日及び残高の管理を行い、主な取引先の信用状況は定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券は全て株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握をしております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理担当が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,496,840	2,496,840	
(2) 受取手形及び売掛金	3,349,859	3,349,859	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	793,883	793,883	
(4) 長期性預金	300,000	300,100	100
資産計	6,940,583	6,940,683	100
(1) 支払手形及び買掛金	3,406,617	3,406,617	
(2) 短期借入金	2,119,000	2,119,000	
負債計	5,525,617	5,525,617	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

(4) 長期性預金

これらの時価については、元利金の受取見込み額を、新規に同様の預入れを行った場合に想定される預金金利で割り引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	12,011

上記については、市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,496,840			
受取手形及び売掛金	3,349,859			
投資有価証券				
その他有価証券				
長期性預金		300,000		
合計	5,846,699	300,000		

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金を基本とし、一時的な余資が生じた場合は安全性の高い金融資産で運用しております。また、運転資金は銀行借入にて調達しております。

デリバティブ取引は、外貨建資産・負債に係る為替相場の変動リスクを回避する目的のみで行うものとしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。また、その一部には、商品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。

短期借入金及び長期借入金は主に運転資金に係る資金調達であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿って取引先ごとに期日及び残高の管理を行い、主な取引先の信用状況は定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券は全て株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握をしております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理担当が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,861,488	2,861,488	
(2) 受取手形及び売掛金	3,822,328	3,822,328	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	834,630	834,630	
(4) 長期性預金	200,000	197,917	2,082
資産計	7,718,446	7,716,364	2,082
(1) 支払手形及び買掛金	4,081,246	4,081,246	
(2) 短期借入金	2,119,000	2,119,000	
(3) 長期借入金	437,500	437,447	52
負債計	6,637,746	6,637,694	52

長期借入金には1年以内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金
これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 投資有価証券
これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。
- (4) 長期性預金
これらの時価については、元利金の受取見込み額を、新規に同様の預入れを行った場合に想定される預金金利で割り引いて算定する方法によっております。

負債

- (1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金
これらは短期間に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 長期借入金
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される金利で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	12,011

上記については、市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,861,488			
受取手形及び売掛金	3,822,328			
投資有価証券 その他有価証券				
長期性預金		100,000	100,000	
合計	6,683,816	100,000	100,000	

(注4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算後の返済予定額

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	150,000	137,500		

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

	種類	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
		連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	423,708	320,862	102,845
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	423,708	320,862	102,845
連結貸借対照表計上額が取得原 価を超えないもの	(1) 株式	370,174	500,028	129,854
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	370,174	500,028	129,854
合計		793,883	820,891	27,008

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位: 千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	31,008	22,008	
債券			
その他			
合計	31,008	22,008	

3 減損処理を行った有価証券(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について27,238千円減損処理を行っております。なお、その他有価証券で時価のある株式についての減損処理にあたっては、時価が著しく下落したと判定するための基準として、時価が取得価格に比べて40%以上下落した場合に、著しい下落があったものとして、回復可能性の判定の対象としております。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

	種類	当連結会計年度 (平成24年 3月31日)		
		連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	530,313	424,687	105,626
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	530,313	424,687	105,626
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	304,316	402,464	98,148
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	304,316	402,464	98,148
合計		834,630	827,152	7,477

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
イ 退職給付債務	885,013千円	イ 退職給付債務	895,830千円
ロ 年金資産	80,623千円	ロ 年金資産	88,091千円
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	804,390千円	ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	807,739千円
ニ 会計基準変更時差異の未処理額	千円	ニ 会計基準変更時差異の未処理額	千円
ホ 未認識数理計算上の差異	30,349千円	ホ 未認識数理計算上の差異	4,383千円
ヘ 未認識過去勤務債務	19,602千円	ヘ 未認識過去勤務債務	千円
ト 連結貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ+ホ+ヘ)	793,643千円	ト 連結貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ+ホ+ヘ)	812,122千円
チ 前払年金費用	千円	チ 前払年金費用	千円
リ 退職給付引当金(ト-チ)	793,643千円	リ 退職給付引当金(ト-チ)	812,122千円

(注) 一部の連結子会社においては、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
イ 勤務費用	59,490千円	イ 勤務費用	60,489千円
ロ 利息費用	16,174千円	ロ 利息費用	16,959千円
ハ 期待運用収益	1,554千円	ハ 期待運用収益	1,612千円
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	千円	ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	千円
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	52,090千円	ホ 数理計算上の差異の費用処理額	30,349千円
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	1,782千円	ヘ 過去勤務債務の費用処理額	19,602千円
ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	20,238千円	ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	86,582千円

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ 勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
ロ 割引率	2.0%	ロ 割引率	2.0%
ハ 期待運用収益率	2.0%	ハ 期待運用収益率	2.0%
ニ 過去勤務債務の額の処理年数	1年	ニ 過去勤務債務の額の処理年数	1年
ホ 数理計算上の差異の処理年数	1年	ホ 数理計算上の差異の処理年数	1年

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	32,836千円	20,065千円
賞与引当金	33,892千円	36,000千円
未払事業税	10,848千円	15,075千円
貸倒引当金	61,349千円	49,706千円
退職給付引当金	320,412千円	295,548千円
役員退職慰労引当金	98,999千円	95,038千円
投資有価証券評価損	132,162千円	116,792千円
有形固定資産減損損失	110,904千円	100,957千円
会員権評価損	39,167千円	12,299千円
その他有価証券評価差額金	52,370千円	34,980千円
その他	2,194千円	2,952千円
繰延税金資産小計	895,138千円	779,417千円
評価性引当額	331,806千円	266,749千円
繰延税金資産合計	563,332千円	512,668千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	36,643千円	32,061千円
その他有価証券評価差額金	41,477千円	37,645千円
その他	4,459千円	4,872千円
繰延税金負債合計	82,580千円	74,579千円
繰延税金資産の純額	480,751千円	438,089千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.3%	40.3%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	4.8%	3.1%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	0.7%	0.5%
住民税均等割	19.5%	13.9%
前連結会計年度法人税等残高戻入	1.3%	%
評価性引当	6.3%	2.0%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	%	11.2%
その他	3.5%	4.4%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	65.4%	70.5%

3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引き下げ及び復興特別法人税の課税が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は40.33%から、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.64%になります。この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の額を控除した金額)が43,126千円減少し、その他有価証券評価差額金が350千円、法人税等調整額が43,476千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

重要性がないため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

重要性がないため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸マンション(土地を含む。)を所有しております。平成23年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸利益は186,351千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

2 賃貸等不動産の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額(千円)			連結決算時における時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
3,232,805	121,114	3,111,691	3,500,951

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度における減少理由は、主に減価償却によるものであります。

3. 時価の算定方法

主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸マンション(土地を含む。)を所有しております。平成24年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸利益は185,316千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

2 賃貸等不動産の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額(千円)			連結決算時における時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
3,111,691	93,110	3,018,581	3,586,023

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度における減少理由は、主に減価償却によるものであります。

3. 時価の算定方法

主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は業務用厨房機器の販売を中心に事業活動を展開しており、これらに付帯する業務用厨房機器の修理・保守サービス及び業務用厨房機械器具、製菓・製パン機械器具の製造を行っているほか、不動産の賃貸事業を行っております。

したがって、当社においては、「業務用厨房関連事業」及び「不動産賃貸事業」の2つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額(注) 2
	業務用厨房 関連事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,937,263	342,741	14,280,005		14,280,005
セグメント間の内部 売上高又は振替高		10,065	10,065	10,065	
計	13,937,263	352,807	14,290,071	10,065	14,280,005
セグメント利益	682,222	196,417	878,639	596,129	282,510
セグメント資産	7,348,775	3,145,608	10,494,384	4,736,159	15,230,543
その他の項目					
減価償却費	129,085	87,051	216,137	113,327	329,465
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	26,645	400	27,045	18,560	45,606

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額 596,129千円には、セグメント間取引消去2,502千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 598,632千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

(2)セグメント資産の調整額4,736,159千円には、セグメント間取引消去 39,693千円及び各報告セグメントに配分していない全社資産 4,775,853千円が含まれております。全社資産は主に当社での余剰運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び本社管理部門に係る資産等であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額(注) 2
	業務用厨房 関連事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,953,205	346,531	15,299,736		15,299,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高		10,065	10,065	10,065	
計	14,953,205	356,597	15,309,802	10,065	15,299,736
セグメント利益	816,448	195,382	1,011,831	602,207	409,623
セグメント資産	7,690,763	3,080,171	10,770,935	4,896,350	15,667,285
その他の項目					
減価償却費	120,598	85,461	206,059	111,254	317,314
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	38,384	12,628	51,012	8,920	59,932

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1)セグメント利益の調整額 602,207千円には、セグメント間取引消去3,093千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 605,300 千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
 - (2)セグメント資産の調整額4,896,350千円には、セグメント間取引消去 24,864千円及び各報告セグメントに配分していない全社資産4,921,215千円が含まれております。全社資産は主に当社での余剰運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び本社管理部門に係る資産等であります。
 - (3)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額8,920千円は、本社建物の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産額がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産額がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	業務用厨房 関連事業	不動産賃貸事業	計		
減損損失		8,520	8,520		8,520

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに 1 株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3 月31日)
(1) 1 株当たり純資産額	345.54円	392.54円
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額	8,181,744千円	7,300,000千円
普通株式に係る純資産額	8,181,744千円	7,300,000千円
普通株式の発行済株式数	23,818,257株	23,818,257株
普通株式の自己株式数	139,879株	5,221,881株
1 株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	23,678,378株	18,596,376株

項目	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
(2) 1 株当たり当期純利益金額	4.39円	5.44円
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の当期純利益	103,865千円	125,367千円
普通株式に係る当期純利益	103,865千円	125,367千円
普通株主に帰属しない金額	千円	千円
普通株式の期中平均株式数	23,680,006株	23,066,631株

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,119,000	2,119,000	0.84	
1年以内に返済予定の長期借入金		150,000	1.10	
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)		287,500	1.10	平成25年4月30日～ 平成27年2月27日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)				
その他有利子負債				
合計	2,119,000	2,556,500		

(注) 1. 「平均利率」については、期中平均借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	150,000	137,500		

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成 23年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成 23年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成 23年12月31日)	第65期 連結会計年度 (自平成23年4月1日至平成 24年3月31日)
売上高(千円)	3,193,852	7,208,936	10,781,152	15,299,736
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	15,624	149,480	231,912	424,792
四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (千円)	43,603	40,777	32,451	125,367
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり純 損失金額()(円)	1.84	1.72	1.37	5.44

(会計期間)	第1四半期 連結会計期間 自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	第2四半期 連結会計期間 自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	第3四半期 連結会計期間 自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	第4四半期 連結会計期間 自平成24年1月1日 至平成24年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり純損失金額 ()(円)	1.84	3.56	0.35	4.07

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,417,510	2,749,227
受取手形	596,402	4 584,847
売掛金	1 2,735,836	1 3,213,086
商品	1,197,742	1,151,449
短期貸付金	60	300
前払金	15,508	19,667
前払費用	50,149	41,363
繰延税金資産	56,034	53,837
その他	1 51,054	1 31,238
貸倒引当金	43,200	41,600
流動資産合計	7,077,099	7,803,417
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,976,562	5,992,466
減価償却累計額	2,810,996	2,981,441
建物(純額)	3,165,565	3,011,024
構築物	128,286	128,286
減価償却累計額	102,818	106,236
構築物(純額)	25,467	22,049
車両運搬具	273,018	276,477
減価償却累計額	242,905	244,204
車両運搬具(純額)	30,113	32,273
工具、器具及び備品	460,510	463,475
減価償却累計額	402,432	415,200
工具、器具及び備品(純額)	58,078	48,274
土地	2,697,889	2,675,713
有形固定資産合計	5,977,114	5,789,335
無形固定資産		
特許権	550	442
借地権	31,555	31,555
商標権	716	671
実用新案権	318	245
意匠権	366	304
電話加入権	19,233	19,233
ソフトウェア	150,982	64,686
その他	94	76
無形固定資産合計	203,818	117,215

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	805,894	846,641
関係会社株式	173,001	173,001
破産更生債権等	108,093	159,511
長期前払費用	5,956	18,689
繰延税金資産	422,551	382,052
会員権	23,900	6,776
長期預金	300,000	200,000
長期貸付金	1,199	1,499
その他	192,803	191,803
貸倒引当金	108,093	112,493
投資その他の資産合計	1,925,306	1,867,481
固定資産合計	8,106,239	7,774,033
資産合計	15,183,338	15,577,451
負債の部		
流動負債		
支払手形	1 2,128,534	1 2,424,992
買掛金	1 1,316,629	1 1,718,540
短期借入金	2 2,100,000	2 2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	-	150,000
未払金	86,180	75,542
未払費用	13,302	11,059
未払法人税等	76,749	222,193
未払消費税等	30,959	39,134
前受金	12,966	1 61,483
預り金	121,560	63,601
前受収益	1,023	1,244
賞与引当金	68,940	80,000
設備関係支払手形	11,561	7,893
流動負債合計	5,968,408	6,955,685
固定負債		
退職給付引当金	756,591	771,296
役員退職慰労引当金	243,100	260,200
長期預り保証金	1 34,894	1 35,039
長期借入金	-	287,500
長期前受収益	358	258
固定負債合計	1,034,945	1,354,294
負債合計	7,003,354	8,309,980

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,235,546	3,235,546
資本剰余金		
資本準備金	2,964,867	2,964,867
その他資本剰余金	270	270
資本剰余金合計	2,965,137	2,965,137
利益剰余金		
利益準備金	410,223	410,223
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金	³ 48,204	³ 51,993
建物圧縮積立金	³ 6,206	³ 5,225
構築物圧縮積立金	³ 174	³ 145
別途積立金	2,250,000	2,250,000
繰越利益剰余金	687,762	714,335
利益剰余金合計	2,027,046	2,003,252
自己株式	31,630	941,278
株主資本合計	8,196,100	7,262,657
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	16,115	4,812
評価・換算差額等合計	16,115	4,812
純資産合計	8,179,984	7,267,470
負債純資産合計	15,183,338	15,577,451

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
商品売上高	13,883,525	14,856,259
不動産営業収入	352,807	356,597
売上高合計	14,236,332	15,212,856
売上原価		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	962,526	1,197,742
当期商品仕入高	10,866,151	11,357,500
合計	11,828,677	12,555,242
商品期末たな卸高	1,197,742	1,151,449
商品売上原価	¹ 10,630,935	¹ 11,403,793
不動産営業原価	² 156,390	² 161,214
売上原価合計	10,787,325	11,565,008
売上総利益	3,449,007	3,647,848
販売費及び一般管理費		
荷造費	70,331	72,008
広告宣伝費	38,988	37,864
貸倒引当金繰入額	8,718	3,836
旅費及び交通費	110,498	109,494
給料及び手当	1,651,414	1,666,142
賞与引当金繰入額	68,940	80,000
役員退職慰労引当金繰入額	24,400	25,500
退職給付費用	13,973	75,450
福利厚生費	289,968	293,114
減価償却費	234,991	225,311
租税公課	71,080	71,128
その他	602,591	623,114
販売費及び一般管理費合計	3,185,897	3,282,965
営業利益	263,109	364,883
営業外収益		
受取利息	2,377	2,823
受取配当金	11,461	9,667
受取家賃	10,587	9,896
受取手数料	1,147	1,209
為替差益	4,491	-
受取補償金	-	12,405
その他	23,030	15,379
営業外収益合計	53,095	51,380

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業外費用		
支払利息	18,648	18,485
支払手数料	7,493	13,957
為替差損	-	267
営業外費用合計	26,141	32,711
経常利益	290,063	383,552
特別利益		
固定資産売却益	3 60	3 8,241
投資有価証券売却益	22,008	-
特別利益合計	22,068	8,241
特別損失		
固定資産売却損	4 4	4 771
固定資産除却損	5 2,145	5 566
投資有価証券評価損	27,238	-
会員権評価損	450	100
減損損失	-	6 8,520
特別損失合計	29,838	9,958
税引前当期純利益	282,292	381,835
法人税、住民税及び事業税	91,600	258,100
法人税等調整額	89,228	29,137
法人税等合計	180,828	287,237
当期純利益	101,464	94,597

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,235,546	3,235,546
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,235,546	3,235,546
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,964,867	2,964,867
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,964,867	2,964,867
その他資本剰余金		
当期首残高	270	270
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	270	270
資本剰余金合計		
当期首残高	2,965,137	2,965,137
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,965,137	2,965,137
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	410,223	410,223
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	410,223	410,223
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金		
当期首残高	48,204	48,204
当期変動額		
土地圧縮積立金の積立	-	3,788
当期変動額合計	-	3,788
当期末残高	48,204	51,993

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物圧縮積立金		
当期首残高	6,469	6,206
当期変動額		
建物圧縮積立金の積立	-	429
建物圧縮積立金の取崩	262	1,409
当期変動額合計	262	980
当期末残高	6,206	5,225
構築物圧縮積立金		
前期末残高	184	174
当期変動額		
構築物圧縮積立金の積立	-	11
構築物圧縮積立金の取崩	10	40
当期変動額合計	10	29
当期末残高	174	145
別途積立金		
当期首残高	2,250,000	2,250,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,250,000	2,250,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	671,092	687,762
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	101,464	94,597
圧縮積立金の積立	-	4,229
圧縮積立金の取崩	273	1,450
当期変動額合計	16,670	26,573
当期末残高	687,762	714,335
利益剰余金合計		
当期首残高	2,043,990	2,027,046
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	101,464	94,597
圧縮積立金の積立	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-
当期変動額合計	16,943	23,794
当期末残高	2,027,046	2,003,252

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	31,091	31,630
当期変動額		
自己株式の取得	538	909,648
当期変動額合計	538	909,648
当期末残高	31,630	941,278
株主資本合計		
当期首残高	8,213,582	8,196,100
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	101,464	94,597
自己株式の取得	538	909,648
当期変動額合計	17,481	933,442
当期末残高	8,196,100	7,262,657
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	8,711	16,115
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	24,827	20,928
当期末残高	16,115	4,812
評価・換算差額等合計		
当期首残高	8,711	16,115
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	24,827	20,928
当期末残高	16,115	4,812
純資産合計		
当期首残高	8,222,294	8,179,984
当期変動額		
剰余金の配当	118,407	118,391
当期純利益	101,464	94,597
自己株式の取得	538	909,648
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,827	20,928
当期変動額合計	42,309	912,514
当期末残高	8,179,984	7,267,470

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

.....総平均法による原価法

その他有価証券

.....時価のあるもの

決算時の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

.....時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

.....個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用している。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10年～50年

車輛運搬具 4年～7年

なお、取得価額が100千円以上200千円未満の資産については、3年で均等償却する方法を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 長期前払費用

定額法

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により、円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給にあてるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(1年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、それぞれ発生の翌事業年度に費用処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程(内規)に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

7 重要な収益及び費用の計上基準

(1) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(2) 据付工事を含む販売契約に係る収益の計上基準

当事業年度に着手した据付工事を含む販売契約のうち、納品開始から90日以上で、進捗部分について成果の確実性が認められる販売契約については工事進行基準(販売の原価比例法)を、その他の据付工事を含む販売契約については検収基準を適用しております。

8 その他財務諸表作成の為の重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

- 1 関係会社に対する資産及び負債で、区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(流動資産)		
売掛金	1,838千円	4,321千円
未収金	25,208千円	22,049千円
(流動負債)		
支払手形	14,721千円	20,855千円
買掛金	94,578千円	129,839千円
前受金	円	414千円
(固定負債)		
預り保証金	2,400千円	2,400千円

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりです。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	3,600,000千円	3,600,000千円
借入実行残高	2,100,000千円	2,100,000千円
差引額	1,500,000千円	1,500,000千円

3 (前事業年度)

租税特別措置法(65条の7 特定の資産の買換に関する課税の特例)の規定により、買換取得資産に対して積立てたもの(税効果会計適用後)であります。

(当事業年度)

租税特別措置法(65条の7 特定の資産の買換に関する課税の特例)の規定により、買換取得資産に対して積立てたもの(税効果会計適用後)であります。

4 (当事業年度)

事業年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の会計期間末日手形が、当事業年度末残高に含まれております。

受取手形 81,874千円

5 (前事業年度)

北沢キープサービス株の金融機関からの借入金19,000千円に対し、保証予約を行っております。

(当事業年度)

北沢キープサービス株の金融機関からの借入金19,000千円に対し、保証予約を行っております。

(損益計算書関係)

1 (前事業年度)

通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は51,272千円であります。

(当事業年度)

通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は46,291千円であります。

2 (前事業年度)

不動産賃貸原価の内87,051千円は減価償却費であります。

(当事業年度)

不動産賃貸原価の内85,461千円は減価償却費であります。

3 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
車輛運搬具の売却益	60千円	28千円
土地の売却益	千円	8,212千円

4 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
会員権の売却損	4千円	千円
車両の売却損	千円	771千円

5 この内訳を示すと次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物の除却損	199千円	千円
車輛運搬具の除却損	1,100千円	481千円
工具器具及び備品の除却損	845千円	85千円

6 減損損失

当事業年度(自 平成23年3月31日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失計上額
長野県松本市	賃貸用住宅	土地・建物	8,520千円

当社グループは、業務用厨房関連事業用資産については管理会計上の区分を基礎として各地域ブロックを、不動産賃貸事業用資産について個別物件単位を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として資産のグルーピングを行いました。

長野県松本市にある賃貸用住宅において、地価の下落や収益の動向を勘案し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

減損損失の内訳は、土地8,520千円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価に準ずる方法により算出しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	136,770	3,109		139,879

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 3,109株

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	139,879	5,082,002		5,221,881

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,002株

平成24年2月16日取締役会の決議に基づく取得 5,080,000株

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(貸主側)

リース物件の取得価額、減価償却累計額および期末残高

前事業年度(平成23年3月31日)

	建物及び構築物	合計
取得価額	758,838千円	758,838千円
減価償却累計額	233,107千円	233,107千円
期末残高	525,730千円	525,730千円

当事業年度(平成24年3月31日)

	建物及び構築物	合計
取得価額相当額	758,838千円	758,838千円
減価償却累計額相当額	257,393千円	257,393千円
期末残高相当額	501,444千円	501,444千円

未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	15,981千円	17,705千円
1年超	665,456千円	647,750千円
合計	681,437千円	665,456千円

受取リース料、減価償却費および受取利息相当額

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
受取リース料	85,386千円	85,386千円
減価償却費	26,109千円	24,286千円
受取利息相当額	70,962千円	69,405千円

利息相当額の算定方法

リース料総額と見積残存価額の合計からリース物件の購入価額を控除した額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

1. ファイナンス・リース取引

(貸主側)

(1) リース投資資産の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
リース料債権部分	22,026千円	29,087千円
見積残存価額部分	千円	千円
受取利息相当額	18,142千円	24,284千円
リース投資資産	3,883千円	4,802千円

(その他流動資産に含めております。)

(2) リース投資資産に係るリース料債権部分の事業年度末日後の回収予定額

流動資産

前事業年度(平成23年3月31日)

	リース投資資産
1年以内	5,127千円
1年超2年以内	5,127千円
2年超3年以内	5,127千円
3年超4年以内	4,638千円
4年超5年以内	1,965千円
5年超	40千円

当事業年度(平成24年3月31日)

	リース投資資産
1年以内	7,335千円
1年超2年以内	7,335千円
2年超3年以内	6,846千円
3年超4年以内	4,173千円
4年超5年以内	2,248千円
5年超	1,149千円

2. オペレーティング・リース取引

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	13,445千円	13,445千円
1年超	164,807千円	151,208千円
合計	178,252千円	164,653千円

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	19,528千円	23,118千円
1年超	163,966千円	182,684千円
合計	183,494千円	205,803千円

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社及び関係会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)
子会社株式	173,001
計	173,001

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社及び関係会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)
子会社株式	173,001
計	173,001

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	27,803千円	30,408千円
未払事業税	10,848千円	15,075千円
貸倒引当金	61,016千円	49,706千円
退職給付引当金	305,133千円	280,104千円
役員退職慰労引当金	98,042千円	94,012千円
投資有価証券評価損	132,162千円	116,792千円
有形固定資産減損損失	110,904千円	100,957千円
会員権評価損	39,167千円	12,299千円
その他有価証券評価差額金	52,370千円	34,980千円
その他	1,492千円	2,216千円
繰延税金資産小計	838,940千円	736,553千円
評価性引当額	282,234千円	230,956千円
繰延税金資産合計	556,706千円	505,597千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	36,643千円	32,061千円
その他有価証券評価差額金	41,477千円	37,645千円
繰延税金負債合計	78,121千円	69,706千円
繰延税金資産の純額	478,585千円	435,890千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.3%	40.3%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	5.0%	3.3%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	0.8%	0.5%
住民税均等割	20.1%	14.9%
前事業年度法人税等残高戻入	1.4%	%
評価性引当	4.0%	0.4%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	%	12.5%
その他	3.3%	4.4%
税効果会計適用後の法人税等の負 担率	64.1%	75.2%

3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引き下げ及び復興特別法人税の課税が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は40.33%から、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.64%になります。この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の額を控除した金額)が43,126千円減少し、その他有価証券評価差額金が350千円、法人税等調整額が43,476千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

重要性がないため記載を省略しております。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

重要性がないため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	345.46円	390.80円
(算定上の基礎)		
貸借対照表の純資産の部の合計額	8,179,984千円	7,267,470千円
普通株式に係る純資産額	8,179,984千円	7,267,470千円
普通株式の発行済株式数	23,818,257株	23,818,257株
普通株式の自己株式数	139,879株	5,221,881株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	23,678,378株	18,596,376株

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	4.28円	4.10円
(算定上の基礎)		
損益計算書上の当期純利益	101,464千円	94,597千円
普通株式に係る当期純利益	101,464千円	94,597千円
普通株主に帰属しない金額	千円	千円
普通株式の期中平均株式数	23,680,006株	23,066,631株

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価 証券	その他有 価証券	(株)ほくほくフィナンシャルグループ	534,918	84,517
		昭和化学工業(株)	255,000	81,345
		(株)歌舞伎座	20,000	79,300
		(株)カナデン	129,199	67,829
		大和ハウス工業(株)	57,000	62,358
		福島工業(株)	50,000	59,500
		サンデン(株)	220,000	59,400
		(株)フジ	25,665	47,326
		ホシザキ電機(株)	20,000	39,040
		(株)オオバ	205,000	32,595
	その他(23銘柄)	483,991	233,430	
計		2,000,773	846,641	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	5,976,562	15,903		5,992,466	2,981,441	170,444	3,011,024
構築物	128,286			128,286	106,236	3,417	22,049
車輛運搬具	273,018	28,209	24,751	276,477	244,204	24,679	32,273
工具器具備品	460,510	16,152	13,187	463,475	415,200	24,817	48,274
土地	2,697,889		22,176 (8,520)	2,675,713			2,675,713
有形固定資産計	9,536,267	60,265	60,115 (8,520)	9,536,418	3,747,082	223,359	5,789,335
無形固定資産							
特許権	940		222	717	275	108	442
借地権	31,555			31,555			31,555
商標権	1,080	63		1,143	471	108	671
実用新案権	367			367	122	73	245
意匠権	433			433	128	61	304
電話加入権	19,233			19,233			19,233
ソフトウェア	437,240	741	7,300	430,681	365,994	87,036	64,686
その他	269			269	192	17	76
無形固定資産計	491,119	804	7,522	484,401	367,185	87,406	117,215
長期前払費用	6,288	18,689	6,288	18,689		6	18,689
繰延資産							

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。
建物 上青木マンション外壁補修工事 11,428千円
2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。
土地 日高流通センター敷地一部売却 13,655千円
なお、当期減少額のうち()内は内書で減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	151,293	63,042	1,036	59,205	154,093
賞与引当金	68,940	80,000	68,940		80,000
役員退職慰労引当金	243,100	25,500	8,400		260,200

(注) 貸倒引当金の当期減少額の「その他」は一般債権の貸倒実績率による洗替額及び債権回収による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

流動資産

a 現金及び預金

内訳	金額(千円)
現金	32,679
預貯金	
当座預金	597,955
普通預金	1,818,591
定期預金	300,000
小計	2,716,547
合計	2,749,227

b 受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)モンテローザ	183,089
(株)フジマック	29,893
クリナップ(株)	29,472
(株)丸三	13,509
ホシザキ東海(株)	13,364
その他	315,516
合計	584,847

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月満期	206,960
平成24年5月 "	114,305
平成24年6月 "	132,952
平成24年7月 "	96,094
平成24年8月以降満期	34,534
合計	584,847

c 売掛金
(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)モンテローザ	366,226
菱熱工業(株)	99,490
(株)ヤマショウフーズ	50,120
(株)マルエツ	47,324
コーナン建設(株)	44,761
その他	2,605,162
合計	3,213,086

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	
2,735,836	15,599,151	15,121,902	3,213,086	82.5	69.8

(注) 1 算出方法

$$\text{滞留期間} = \frac{\text{売掛金平均残高} \frac{(A)+(D)}{2}}{\text{当期発生高}(B)} \times 366\text{日}$$

2 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

3 不動産賃貸収入対応分は含まれておりません。

d 商品

品群別	金額(千円)
ブレパレーションライン	29,520
コールドフーズライン	58,553
ホットフーズライン	343,924
マスフーズライン	48,293
サニタリーライン	91,835
サービスライン	99,701
ベーカーズライン	42,146
その他の商品	437,473
合計	1,151,449

(注) 品群別の説明

- ブレパレ - ションライン・・・料理の下ごしらえをするための機器群
- コールドフーズライン・・・食品を冷凍、冷蔵保管するための機器群
- ホットフーズライン・・・食品を加熱調理するための機器群
- マスフーズライン・・・食品を大量に生産加工、調理加工するための機器群
- サニタリーライン・・・食器の洗浄から殺菌、保管までの一連のシステム機器群
- サービスライン・・・レストランなどのサービスエリアに設置される機器群
- ベーカーズライン・・・製菓、製パンを行うための機器群
- その他の商品・・・上記ラインに該当しない商品

負債の部
流動負債

a 支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
仲産業(株)	115,812
ニチワ電機(株)	109,954
パナソニック E S 産機システム(株)	105,948
ミドリ電機製造(株)	70,850
(株)コメットカトウ	69,437
その他	1,952,989
合計	2,424,992

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月満期	647,324
平成24年5月 "	578,189
平成24年6月 "	446,241
平成24年7月 "	753,236
合計	2,424,992

b 買掛金

相手先	金額(千円)
福島工業(株)	155,054
エース工業(株)	68,645
ホシザキ電機(株)	63,775
パナソニック E S 産機システム(株)	54,982
(株)コメットカトウ	52,771
その他	1,323,310
合計	1,718,540

c 短期借入金

借入先	金額(千円)
(株)北陸銀行	1,020,000
(株)横浜銀行	680,000
(株)三井住友銀行	300,000
(株)三菱東京U F J銀行	100,000
合計	2,100,000

d 設備関係支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日産自動車販売(株)	4,531
スズキ(株)	3,217
(株)T B S	144
合計	7,893

(b) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月満期	2,685
平成24年5月 "	5,063
平成24年6月 "	144
合計	7,893

e 長期借入金

借入先	金額(千円)
(株)北陸銀行	230,000
(株)横浜銀行	57,500
合計	287,500

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	500株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL http://www.kitazawasangyo.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる株の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	(事業年度 自 平成22年4月1日 (第64期) 至 平成23年3月31日)	平成23年6月29日 関東財務局長へ提出
(2) 内部統制報告書	(事業年度 自 平成22年4月1日 (第64期) 至 平成23年3月31日)	平成23年6月29日 関東財務局長へ提出
(3) 四半期報告書	(第65期第1四半期 自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	平成23年8月12日 関東財務局長へ提出
	(第65期第2四半期 自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	平成23年11月14日 関東財務局長へ提出
	(第65期第3四半期 自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	平成24年2月14日 関東財務局長へ提出
(4) 四半期報告書の確認書	(第65期第1四半期 自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	平成23年8月12日 関東財務局長へ提出
	(第65期第2四半期 自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	平成23年11月14日 関東財務局長へ提出
	(第65期第3四半期 自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	平成24年2月14日 関東財務局長へ提出
(5) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。	平成23年7月4日 関東財務局長へ提出
(6) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。	平成24年2月17日 関東財務局長へ提出
(7) 自己株券買付状況報告書	平成24年3月1日関東財務局長へ提出	

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月28日

北沢産業株式会社
取締役会御中

公認会計士治田秀夫事務所

公認会計士 治田 秀夫

公認会計士高橋正一事務所

公認会計士 高橋 正一

< 財務諸表監査 >

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている北沢産業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、北沢産業株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

私たちは、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、北沢産業株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、私たちに内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、私たちの判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、北沢産業株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年 6月28日

北 沢 産 業 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

公認会計士治田秀夫事務所

公認会計士 治 田 秀 夫

公認会計士高橋正一事務所

公認会計士 高 橋 正 一

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている北沢産業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第65期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、北沢産業株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。